

平成23年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

学校運営計画(4月)				評価(3月)		
学校運営方針		次代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。			A	
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標			
本校は、文武両道にわたって成果を上げる有数の進学校、伝統校へと発展を続けている。平成21年度からの「きらめき計画」の導入により、教育活動全般について改善に取り組み一定の成果を上げた。今年度は、同計画の完成年度に当たることから一層の充実・発展に努める。また、校務運営組織の整備に伴い、各人の業務量の均衡化と各分掌の連携体制の強化を図る。	生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いの中で豊かな人間性を育む。	生徒指導の基本を挨拶、掃除、容儀、時間厳守とし、全職員での指導を徹底する。 部活動加入率80%超を目指し、運動・文化の両部活動の活性化を図る。 いじめのない学校を目指し、全教育活動において心豊かな生徒の育成に努める。 悩みを抱える生徒を早期に発見し支援するために、細かな生徒観察を心掛ける。				
	1時間の授業を大切にし、学力の向上・深化を図る。	年間出席率を99%超と定め、規律ある授業展開の徹底を図る。 中退率0%を目指し、気になる生徒に関する情報の共有化を図りながら指導に当たる。 家庭学習を充実させるために、学ぶ意義と有効な時間の使い方を全職員で指導する。				
	学ぶ意義について考えさせ、志をより一層高め進路の実現を図る。	生徒が夢を描き続けられるように、様々な教育活動を通して支援する。 職員全員の学校経営参画意識を醸成し、チームとしての意識の定着を図る。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
教科指導	「生徒の状況に応じた効果的な学習指導」の実践の企画・運営・支援を行う。	導入期指導「春日生になるために」の実践をとおして、授業力の向上を図る。 年間及び学期毎の学習指導計画の活用徹底と学期毎の総括を行い効果的な学習を図る。 計画的な特別補講、三者面談、調査統計資料の提供等により成績不振者指導の充実を図る。 「家庭学習時間の減少」克服のため、「学ぶ意義と有効な時間の使い方」の指導を行う。	B A A B	A		平成24年度以降の新教育課程に対応できるシステムの構築と、校内LAN一元化に伴うデータ処理の影響を十分に確認した上での管理・運営の実施。 「心視の時間＝総合的な学習の時間」を統括する担当分掌とその内容の取扱いの明確化。 キャリア教育課と連携した「心視の時間」の内容についての学年毎の総時間数の調整。
	生徒自らの「在り方生き方」や未来を自主的に探る活動の充実を図り、積極的な生活を身につけさせる。	キャリア教育課との連携を密にし、「心視の時間＝総合的な学習の時間」を充実させ、生徒の生きる力や自主的に学ぶ力の育成を図る。 人権や現代社会の課題等を盛り込んだホームルーム活動の年間予定を作成し、その充実と発展を図る。	B B			
生徒指導	自己指導能力の育成。(規範意識や道徳心の涵養)	「授業心得五行」「春日高校五常」を日々実践する姿勢・態度を身につけさせる。 全職員で校内巡視を行い、問題行動の未然防止や安全な教育環境づくりに配慮する。	B B	B		春日高校五行・五常の粘り強い指導と、失敗を恐れず「志」を持って挑戦する気持ちを持った生徒の育成。 部活動加入率(82.1%)をより高めるとともに、学校活性化のリーダーとしての意識の向上。 交通事故防止、交通マナー改善のための指導方法の更なる工夫。
	集団活動におけるチームワークの重視。(リーダーシップやフォロワーシップの育成)	生徒会執行部及び各専門委員会が連動して機能する、主体的に活動できる組織づくりを支援し、生徒会活動の活性化を図る。 年間を通じて部活動加入率80%以上を実現する。	B A			
	自他の安全を確保するための指導の強化。	事故防止・安全確保・交通マナー向上に向けた、防災教育や交通安全指導を充実させる。 全職員で戸締まり・消灯、下校時刻を厳守させ、速やかに帰宅する習慣をつけさせる。	B B			
進路指導	教員の進路指導力の向上と生徒の進学に係る意識と学力の向上を図る。	指導力向上に向けた研修会・検討会の実施と、入試問題研究会等への積極的な参加を促進する。 模試等の分析結果を踏まえた課題確認と強化目標の設定を徹底し、課外や土曜活用の充実を図る。	A B	B	教員による進路指導室の活用の活性化と「土曜活用」の柔軟な日程設定の検討。 生徒自身が積極的にオープンキャンパスや留学生との交流などに参加するよう後押し強化。	
	進路決定に必要な能力を引き出し、適正な勤労観・職業観を育成する。	外部組織と連携した、講座、講演会、大学訪問等を企画・運営し、進路に係る意識の高揚を図る。 1年の職業・職種研究、2年の学部・学科研究、系統的な小論文指導等をさらに充実させる。	A A			
保健	自主的に健康に関心を深め、諸問題を解決する態度を身につけさせる。	学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動、部活動等をおして、熱中症対策などをはじめ、健康管理や安全指導に関する保健指導を適切に行う。	A		A	気軽に利用できるような生徒相談室の更なる環境整備と有効な利用の促進。 美化活動強化期間の定例化を図るとともに、評価結果のフィードバック方法の充実。
	健康で明るい学習環境作りや環境保護の観点から環境美化に取り組む。	安全点検を定期的に行うとともに美化に関する意識向上を図り、快適な学習環境を作る。 グリーンスタッフ活動の推進を図り、花のある美しい環境を作る。	A A			
広報活動	地域や関係機関へ本校教育活動を適切な情報として適宜・的確に知らせ、魅力ある学校の周知に努める。	中学校のPTA訪問等を積極的に受け入れ、学校紹介も工夫し、本校の教育活動を伝える。	A		A	中学校のPTA訪問は、昨年度より多く10校を受け入れたが、企画広報課の負担がかなり大きい。他の分掌の協力体制の充実・改善。
		学校新聞「春日の風」の内容を充実させ、年4回発行し、関係中学校へ配布する。	A			
		HPの更新を月1回は行い、学校の情報を適切、迅速に発信する。他の分掌と連携し充実を図る。	A			
職員研修	職員研修(校内外)の改善と充実を図る。	授業評価アンケートの実施をおして授業改善に努め、生徒のさらなる学力の伸長を図る。	B		A	教育に直結した内容とともに広く社会で活躍しておられる方の有意義な講演・講義の模索。
		保護者への公開授業を実施し、本校の教育活動への理解を深める。	A			
保護者・同窓会等との連携	PTAや同窓会との相互理解を深め、連携して学校の発展に努める。	PTAや同窓会と連携し、総会、講演会や視察研修の出席率を前年度以上にする。	A		A	PTA行事の保護者の出席は前年度並み以上であった。今後は職員の参加の増大を。
		職員と保護者、保護者同士の相互理解の深化のためのクラス懇談の工夫等、更なる連携に努める。	A			
図書活用	読書の意義や楽しさに気づかせ、読書習慣の確立を図る。	「読書会」を年2回実施するとともに、ブックマイレージの取り組みを活発化する。	A		A	教科との連携を図った授業での図書視聴覚教材利用の活性化と保管場所一覧の作成。
		教科との連携をとり、関係する書籍や資料の充実と図書館利用の促進を図る。	A			